

にゅとぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



No. 102

新年おめでとうございます

会長 桐原 喜彦

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さんにはご壮健で越年され、つつがなく新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年もいろいろな事業が多くの会員・外国の人びとの参加を得て何れも大きな成果を収めることが出来ました。まさに皆さんのパワーの賜です。有難うございました。

昨年、本紙はめでたく創刊100号を数え、新たな第一歩を踏み出しました。この四半世紀にわたる価値ある継続こそが親善協会の大きな力の証だと考えます。歴代の広報部長はじめスタッフ各位に心から敬意を表し感謝申し上げます。「にゅとぴあ岸和田」は会員一人ひとりをつなぐ交流・情報紙であるとともに各方面へのPR紙でもあります。今後もよろしくご愛読頂き、親善協会へのご意見・趣味の短歌・俳句等(国際交流体験にかかわるものなら大歓迎です。)もご投稿下さったら幸いです。

最近、アジアを中心に外国人旅行者が急速に増加し既に年間1200万人にもなろうとしています。

かつてエジプト旅行した際の現地ガイドの話を読み起こします。『10人のグループで日本を旅したとき、夜更けの交差点で車の通行が一台も無いのに歩行者が信号が青に変わるまでジッと待っていた。なんとモラルの素晴らしさ。このひとつを見ただけで日本に行った価値があった…』と。そういえばエジプトの街中では洪水のような車の流れの中、信号も横断歩道も無い道路

を大勢が横断し、中には赤ん坊を抱いて平気で横断する女性もいましたっけ。

また、最近中国人も言います。『日本人は電車の中で席を譲りあっている。本当に素晴らしい…』と。

外国の人びとの視点は広範多岐で、観光地や歴史遺産・文化施設巡り・土産物等々だけではなさそうで日本人の心をも見ているようです。

2020年の東京オリンピック時には外国人旅行者を2000万人にという政府目標があります。道路や川を「ゴミ箱」と思っているような行いは「モラルの問題」と片付けないで是非無くしたいものですね。

私たち親善協会は、多くの外国の人びとと出会い、ともに楽しい時間を共有します。各種の事業を通じての普通の会話、普通の所作、普通のおもてなしから彼・彼女らが日本を感じ、日本人の心を感じ取り、そして私たちも異文化に触れ、少しでもそれを理解出来たら嬉しいのです。

どうかお一人おひとりにとって今年も良い年になりますように! (題字:桐原喜彦)



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出合いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

他団体との交流事業

堺市立国際交流プラザを訪問

12/11
(木)

交流

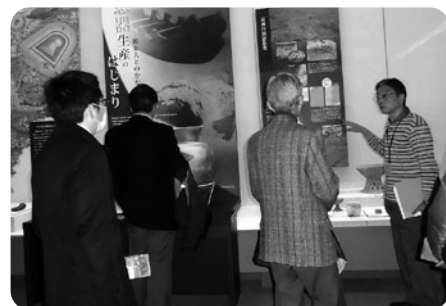
今年度の他団体との交流は、12月11日(木)、桐原会長はじめ19名の参加者が、堺市立国際交流プラザの訪問と大仙公園内にある博物館の見学を行った。

堺市の国際交流プラザは、平成22年7月国際化に伴う諸活動に対する機能を条例化し、外国人とのまちづくりや文化の共生を図り、行政が全てを担い200名のボランティアが支えている。

46ある民間の国際交流団体のネットワークを構築し、活動場所を無償提供している。市内に15ある日本語指導団体が、約1万2千人が居住する堺市の外国人に対応している。プラザは日曜



日も開館し、外国人から在留資格・医療・福祉・子育てなどの相談を受付けている。施設内には外国人が気軽に立ち寄れるスペースがあり関係資料などが置かれていた。



午後からは大仙公園へ移動し昼食後博物館へ。堺市は、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を目指しており館内では学芸員による丁寧な説明があり、古墳に対するの興味が増した。企画展では、焼き物や金工、織物等も展示されており目を見張る作品ばかりであった。博物館の視察を通し、身近な堺市の歴史遺産を堪能することができました。

(事業部会 井手 勤)

和泉高校 留学生への日本語指導

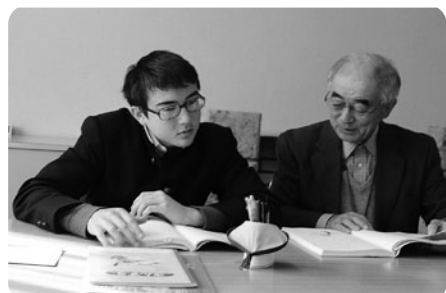
昨年の9月より、府立和泉高等学校にザックリ(通称ザック)君が留学しています。彼はアメリカ・ヴァージニア州出身の16

才です。お母さんが日本人でお母さんのお友人宅にホームステイし、約一年間日本の我が国が愛する岸和田市で、日本語や日本文化を学ばれます。

私は今回、幸運にもメーリングリストにてザック君のボランティア募集に巡り逢い、奈良に居ながら親善協会会員として活動する機会を頂きました。現在は、そんな奈良県他3名の優秀な日本語指導者と日本語サロン、学校の担任や教頭先生、親善協会事務局がタッグを組み日々ザック君の日本語指導に奮闘しています。

ザック君の第一印象は「シャイで真面目な好青年」です。そして彼から受けた一番の衝撃は「日本に興味がない」ということでした。当然日本語は全く知らず、ひらがなやカタカナから勉強を始めました。日本に興味のない彼ですが、すごく勉強熱心で休み時間も惜しまず平仮名の練習をしていました。学校での日本語の授業は週1回2時間だけなのですが、それに加えて週1回の日本語サロンや学校のお友達との会話が効果的なのかどんどん日本語を吸収しています。最近彼の趣味であるサッカーを通して日本人のお友達も増えたとのことでした。やっと観光したい場所もできたようです。

実は、私の周りには日本が好きで日本語を学んでおられる方が



ザック君と指導者 西村茂忠さん

多くザック君のようなタイプは初めてでした。アメリカのご自宅では日本語や日本文化に全く触れずに育ってきたとのこと。カルチャーショックもホームシックも少なからず感じる時期とは思いますが、彼を支えるチームの一員として一緒に頑張り笑顔で帰国の日を迎えたいと思います。

皆様、ザック君と出逢う機会がありましたら日本語、英語を問わず是非お声かけ下さい。優しい笑顔が返ってくると思います。

(岸上 さち子)



編注
ザック君は東岸和田
サロンでも毎週学習
を続けています。

カンガルークラブ Speech & Lunch Party in English

11/3
(祝)

交流

恒例の年一度の第7回発表会が「のだて」で盛大に行われました。外国人ゲストを含め総勢41名で、会場は全く立錐の余地もないほどでした。発表はもちろん英語オンリーで、それぞれ好きなテーマを、一人3分以内という厳しいルールがあります。オーバーすると、タイムキーパーがマスコットのカンガルーを掲げ、警告を發します。猶予の30秒が過ぎるとアラームが鳴ることになっていましたが、さすがにどなたもおられません。皆さん、レベルは相当なものとお見受けしました。また周到なる準備と進行、手作り



ケーキの持ち込み、皆さんの差し入れ、これらはすべて強固なる団結力をモットーとしていることのあらわれだと、十分に



納得できました。食事をとりながらの華やかなチャットも、勿論英語オンリーです。食事のあとは、美声のコーラス、オカリナ演奏、インドの方の軽妙な語り口によるヨガでリラックスしたあと、落語3題と全く退屈することなく、あっという間の4時間でした。次回もまた楽しみに待っています。(広報部)

地震・津波を体験しました!

(2014 OFIX 共催事業)

10/19
(日)



津波・高潮ステーションにて



大地震発生、火災発生・・・その時、みなさんは何ができますか? 迫り来る津波、その時あなたは?・・・「阿倍野防災センター」と「津波・高潮ステーション」で、日本語サロン生など外国人20名を含めた総勢40人が、大阪府国際交流財団(OFIX)との共催のもとに防災体験学習を行いました。

1995年の阪神・淡路大震災並びに2011年の東日本大震災以降、関西でも東南海地震・南海地震が予測されています。どうすれば私たちは被害を最小限に食い止めることができるのか。迫力ある映像や起震装置を用いた震度7でのシミュレーション地震による揺れや、地震直後の街並みを再現した迫力あるセットを通して、リアルに恐ろしさを体験することができました。またパニック状態の室内や街並みの中で、消火・避難救助といった災害時に必要な一連の行動をわかりやすく、どのように沈着冷静に対応すべきかを学習することができました。

歴史的に、地震による津波は繰り返して起きています。「展示棟」では津波災害や高潮災害を経験した先人が私たちに残してくれた教訓の展示品や「津波災害体感シアター」では、近い将来必ず大阪を襲うと言われている南海トラフ巨大地震と津波について、正しい知識の習得と災害発生時の対応などをしっかりと学ぶことができました。特に、外国人のみなさんは、泉州地区の災害マップに大変興味を持ち、避難場所が何処にあるか確認しながら、あらためて災害の恐ろしさと防災の重要性を再認識されたようで、参加者のみなさんにとっては大変有意義な防災ツアーとなりました。普段から防災意識を高め、防災に備えておくことが大切であるということを感じました。「備えあれば憂いなし」。(塩屋 裕)



非常食常備コーナー



消火訓練コーナー



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ、世界のカルチャ、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを、題材にとられず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

皆さんはフランスに対してどんなイメージがありますか? 昨年9月で6回目となるフランス旅行の体験を通して発見した特徴を、ほんの一部ですが以下にご紹介します。

- ・公共交通機関のストライキが頻繁(今回私はAir France 航空のストが原因で、1週間も帰国できなかった)。
- ・街中でフランスパンを持ち歩く人・食べ歩きしている人をよく見かける。
- ・パリの観光地では、アパート1部屋の販売価格は30平方メートルの広さで約260,000ユーロ(約36,400,000円)が相場。
- ・地下鉄の切符は1枚1.7ユーロ(約240円)で、どの駅で降りても同じ料金。
- ・伝統的なチーズの種類は400種類近くある。
- ・食事に招待されたら、10~15分遅れて行くのが習慣(準備が整う前に到着すると、訪問先が困るため)。
- ・あらゆる道路に名前が付いているので、地図が見やすい。
- ・男女問わず日曜大工が趣味の人が多く、家のリフォームは基本的に自分たちでしている。
- ・ホームセンターでは、様々な種類のシャワールームが展示されており、電話付きや腰掛け付きのシャワールームもある。
- ・土日は休みの店が多く、平日でも昼休みとして2時間ほど閉まっている店もある。
- ・スーパーの店員さんは座りながらレジを打ち、スピードも遅い(私は15分待たされた)。

何でも時間に正確な日本とは違い、マイペースなフランス。物事がスムーズに進まないことが多いですが、そのような生活に慣れると、忍耐力や寛容さが身に付きそうです。

(執行 未央)

「みかん狩り」に行ってきました

11/16
(日)



11月16日(日)、地球どんぶりの企画でみかん狩りを楽しみました。参加者は全員で58名。日頃は市内に五つある日本語サロンで学ぶ生徒さんと、指導者の皆さんが合同で楽しめる秋の行事でした。

当日の朝はとてもよいお天気で一安心。10時にチャーターバスで南海岸和田駅前を出発し、JR 東岸和田バス停を経由して、北阪町のみかん園に到着。一人ひとり鉢を借りてみかん狩り。「甘い」「おいしい」を連発してたくさん食べました。おみやげのみかんもいっぱい頂きました。その後、徒歩でとんぼ池公園へ移動し、お弁当を広げました。紅葉がきれいな中、散策をしたり、小さなお子さんは遊具で遊んだり、それぞれに

楽しいひとときを過ごすことができました。じゃんけん列車など簡単なゲームもして、親睦を深めることもできました。午後3時過ぎには、無事岸和田駅前に帰着。

今回は市内やその近辺で働くインドネシア、ベトナムの実習生の方が多く、フィリピン、ロシア、スーダンの方も家族で参加されました。みなさん、本当にお疲れさまでした。秋の一日、いい思い出となりましたね。

(春木日本語サロン 田中 清子)



サクレ・クール寺院をバックに

10/18(土) Cheyenne Deveney さん (USA)



10月のEOCはボストン出身で、河内長野の二つの小学校でALTをしているCheyenneさんのお話でした。

ボストンは9月に息子が出張でお世話になり、私も10月上旬に観光に訪れたばかりでした

ので、彼女のプレゼンはとても身近に感じました。お話の通り、Quincy Marketでは新鮮なsea foodを使った料理が豊富に売られていて、ロブスターロールやクラムチャウダーがとてもおいしかったです。また紹介されたレッドソックスの本拠地フェンウェイ・パークでは息子がチケットをもらって試合を観戦しています。これからもボストンは個人的に縁の深い街になりそうなのですが、冬の厳しさを聞いて残念ながら私には住めそうにはありません。今回は美しい紅葉を堪能させてもらいましたので、次回はお花のきれいなころに訪れたいと思います。成田からはボストンへの直行便も出ています。

次にお話して下さったハロウィンや感謝祭のお話も楽しかったです。今回の旅行で訪れたカナダの友人宅で祝った感謝祭(カナダは収穫が早いので10月の第2月曜日)での美味しかったターキーやパンプキンパイの味を思い出しました。

また、彼女の勤める学校の印象についておもしろい話をして下さいました。「おはようございます」と子どもたちが大きな声であいさつするのですが、彼女にはなぜそんなに大声で叫ぶ(Yelling)のかと「ショック」だったそうです。また全員が同じ体操服に赤白帽姿でまっすぐに整列して長時間三角座りをしている光景は彼女にはあまりにも厳しくまるで軍隊のようだと、これもショックだったと話されました。

岸和田にいながら、異なるバックグラウンドを持つ人たちのお話を聞けるEOCは毎回新しい気づきや発見があり楽しませてもらっています。お世話して下さいている方々は本当にいろいろなお苦勞がありがたいと思いますが、このような素晴らしい機会を与えて下さっていることに心から感謝しています。いつもありがとうございます。(中村 恵子)

11/15(土) Juan Carlos Blanco Díez さん (スペイン)



11月のEOCはスペイン出身のカルロスさんをゲストにお迎えし、自国スペインについてのお話を聞かせていただきました。参加者は30名以上、会場の視聴覚室がほぼ満席となり、たくさんさんの質問も飛び交い、楽しく

有意義な時間となりました。

カルロスさんは現在ALTとして岸和田高校にお勤めで、日本人の奥さまと2才になる娘のマリサちゃんとともに貝塚市にお住まいです。当日来てくださったマリサちゃんが可愛く愛らしく、カフェも始終和やかなムードでした。

たくさんさんの写真とともに紹介して下さったスペインは大変興味深いものでした。ひとつの国といえども、地域によって文化が全く違い、建造物にその違いが顕著に現れ、また話される言語も異なるのだそうです。ケルト民族の影響の大きい地域、フラ

ノスの影響を受けている地域、等々、スペインを深く知るには歴史的背景の理解が必須だと感じました。とはいえ、カルロスさんのお話はヨーロッパの歴史を知らなくても充分楽しめるものでした。建造物の美しさに目をうばわれ、お祭りの様子に心おどりと、そして、何より食文化の豊かさに感銘しました。タコ、ムール貝、ホタテ、イワシ等、魚介類をふんだんに使った伝統的な料理の数々。また食事とともに飲むワインはコカ・コーラより安いとか。

たくさんさんの写真、地図等、周到に準備されたカルロスさんのお話は大変分かりやすく2時間があっという間でした。

最後に広報部長の塩屋さんから、400年も前に日本から慶長遣欧使節団がスペインに渡り、そのまま現地にとどまった人たちの子孫が、「日本」姓を名乗っているとお話をうかがい、よりスペインに親近感を持った次第です。

カルロスさん、関係者の皆様ありがとうございました。
Muchas gracias. (荻野 昌美)

とある視察見学団来る

東岸和田日本語サロン

11/21
(金)



この度、東岸和田日本語サロンは「大阪府市町村識字日本語学習者担当者連絡会議泉南ブロック」という長一い名称の団体9名の来訪を受けました。

大阪府には識字日本語教室は212あり指導者2700名の下に4400名が学んでいます。

彼らはこれを行政サイドから支援する自治体の職員で、この道の専門家であり見学視察等を通じて常に研鑽を重ねています。

大阪が培ってきた多様性と地域特性を生かして識字日本語学習に意欲のある方を対象として「学び」「豊かな心」「健やかな体」を育むべく奮闘中とのこと。

当サロンの全体説明の際にはメモを取り鋭い質問を発し、更には各デスクを巡り指導者の教え方やサロン生の反応等を、時には言葉を交わしつつ興味深そうに且つ熱心に見学していたのが印象に残ります。

彼らは日本語を全然理解しないサロン生に対して如何にして零から出発するか、子供連れのレストランへの接し方等に関心を持った模様です。

我々は彼らの役に立てたのか全く自信はありませんが、彼らからの多くの意見にも受けました。

外部の方を迎え、又我々も外部に出向き交流することにより外部の視点から内部を見ることが可能となり、この結果多くの改善点を発見することが出来て我々のレベルアップに繋がるのではないのでしょうか。(奥野 藤樹)

異文化理解講座

100カ国の異文化体験 ゲスト：井ノ口 宏さん

11/8
(土)



62歳で退職後、76歳で100カ国の放浪旅行を達成されたゲストの井ノ口 宏さんから楽しく参考になるお話を聞くことができました。

イラクの女性の街かどで何とも言えないほほえましい笑顔、シリアの女性は普段黒の衣装で顔と手以外は隠していますが、その黒の衣装もおしゃれに刺繍とかほどこされていることや、下着はとてもカラフルな西欧スタイルで想像もつかなかった。ケニアのマサイ族、成人男子の条件に1対1でライオンと戦う話は驚き。マルタ島は30万人の小国で教育費、医療費がタガなのは初めて知った。一枚の筒状の布地でバングラディッシュの男性のスカート姿も実演。食に関してはパラグアイ、ドバイ、ブラジル等いろんな国の料理を紹介されましたがベトナムの鍋料理店がユニークで材料が回転すし方式のベルトコンベアで運ばれてくる食材を自由に選んで鍋に入れる鍋料理が一番好きだとか。

社会主義国であるキューバでは、教育費、医療費は無料、医療体

制が一番進んでいる国だそうです。無料のホームドクター制で予防医療、健康指導、退院後のアフターケアまでであるとのこと。そう言えば以前、「貧困大国アメリカ」の著者である堤未果さんのお話を聞いた時、アメリカの貧困層は5000万人は無保険、8000万人は安い保険しか入れず1億3000万人がまともな医療を受けられず子供の死亡率がキューバより大幅に高いとか同じ様なことを話しておられた。

井ノ口さんは120カ国放浪宣言されているそうで、今後もお話を聞けるのを楽しみにしています。
(多田 直道)

ふれあい交流祭に参加 於：関西国際センター

11/23
(日)

交流



田尻町にある、独立行政法人 国際交流基金 関西国際センターには世界中から来日し、日本語を学びながら日本の文化に触れるのを目的に外交官、専門家、学生などが、ホテルと学校が一緒になった施設に、常時100名前後の研修生が滞在している。関空対岸の風光明媚な施設には、食堂、図書館、カラオケルームなどもあり、1週間～6カ月間滞在する。その間、ホームビジットなども体験し地域住民との交流も行なっている。

ふれあい交流祭は、岸和田から岬町までの9つの国際交流団体にOFIXが加わり地域住民との交流を深めるためのお祭りで今回17回を迎えました。

協会では、日本の遊び、駄菓子屋さん、大縄跳びで参加しました。日本の遊びコーナーは中庭に面して設営しけん玉、羽根つき、コマ回し、だるま落としなどに大人も子どもも熱中。室内の折り紙コーナーには会員が指導にあたり挑戦する子どもたちの姿がほほえましい。あや取りは、記憶を辿りながら指が覚えている技を披露



し、あ〜そうやと納得、スタッフ間の交流も深まった。

“イングリッシュ オープン カフェ”に関わっているスタッフ4名は、会場の研修生にゲストを依頼し、12月から来年4月までの予約をとりつけられた。

晴天の中庭で、泉南市の「太鼓塾」のメンバーによる演奏で幕あけしたお祭りは、素晴らしいふれあいが沢山あった。
(事務局)

韓国ポリテク大学一行が近畿能開大を訪問

10/14
(火)

交流

10月14日、台風一過の秋晴れの中、団長、通訳を含めた総勢19名の韓国ポリテクカレッジ教授、職員一行が、稲葉町にある「近畿職業能力開発大学校」を訪問されました。

日本と韓国の国旗を掲げた教室で牧野校長の歓迎挨拶の後、国際親善協会会員の金 京雅先生に翻訳して頂いた資料をもとに、各々の自己紹介を済ませると、早速屋外へ出て、各科の実演を視察しました。

電気エネルギー制御科では「太陽光パネル」、生産電気システム技術科では「電動車両走行システムのスポーツカーのような赤い車」、生産技術科では「マシニングセンターによる表札製作」を視察した後、二足歩行のからくり人形がしゃなりしゃなりとお茶を運ぶ様子を熱心に写真を撮って見ておられました。生産機械システム技術科での「六足ロボットの歩行実演」は、まるで蜘蛛が歩きながら両国国旗を振っているかの様な、粋な計らいに思わず拍手が起きました。その後、電子情報技術科による「組込み機器の説明を受け、最



後の見学となる建築施工システム技術科では「広い実習棟内に組まれている鉄筋骨組みの様子や、配置してある資材のスケールの大きさ」を時間を忘れて見上げていました。

日本滞在はわずか三日というハードなスケジュールの為、見学時間は二時間程度となりましたが、皆さんにとっては大変有意義な視察訪問となり、次の日程の為に岸和田を後にされました。
(山本 幸子)

岸和田に暮らして...



かつては外国の街、岸和田も住めば都となり今は自分が暮らす我がまち岸和田。そんな国際色豊かないふわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話しいただいています。

第14回目はブラジル出身、加守町在住の Prof. VÂNIA FÁTIMA ARALDI さんです。



Living in
岸和田
KISHIWADA
第14回

ヴァニア ファティマ アラルディさん (ブラジル)



ご出身はブラジル、リオグランデドスル州、カラジーニョという人口約8万人の都市です。日本からは乗り継ぎ便で、まずサンパウロまで、そしてポルトアレグレへ。ここからさらにバスで250キロと待ち時間を含めるとたっぷり2日は要します。どうしてこのような遠方から岸和田市で住まわれるようになったのか、大変興味のあるところです。

学生の頃、日本企業の駐在員にポルトガル語を教えていましたが、当時は日本語は勿論、日本文化についての知識はほとんどなかったそうです。そして次第に日本文化に関心を持つようになり、単身で日本へやってきましたが、1年の予定が3年、6年、10年となり現在に至っています。当然のことながら、当初はブラジルと日本との生活習慣の違いに大変戸惑いましたが、「Do in Rome as the Romans do / 郷に入っては郷に従え」の教えの通り、まずいろいろな経験を通して、人とのふれあいを大切にするをモットーにされています。

現在は、幼稚園から高校まで、幼児・児童や生徒たちの教育



左からリオ君、ヴァニアさん、マヤちゃん

面のみならず、言葉と生活習慣の違いに悩んでいる在住ブラジル人のための、大きな精神的なサポーターとして、幅広く献身的に活動されている著名な先生です。

ご家族は国際結婚のご主人と4才の息子さん、2才の娘さんの4人家族です。日頃はお仕事で大変忙しいのでお子様は保育所に託していますが、週末は一家揃って買い物や、旅行に出かけたりしますが、特に温泉がお好きだそうです。趣味はガーデニングで、2階ベランダには桜を含めたいろいろな花や木々でいっぱいです。

故郷カラジーニョへは遠くて簡単には帰れません、今年7月に帰った際、子どもさんたちはすっかりご両親に懐かれ、日本へ戻る際は大変だったようです。カラジーニョにも有名な「ガウチョの祭り」(ロデオ/カウボーイたちが、荒馬を乗りこなす技を競う祭り)があり、大変エキサイトしますので、岸和田だんじり祭りを見るたびに思い出そうです。



夕日に輝くカラジーニョの街

2008年には日本人移民100周年を迎え、世界最大の日系人移住地として、現在約160万人の日系人が住んでいるといわれています。一方在日ブラジル人は現在約35万人と増加の一途をたどり、貴重な労働力として日本経済発展のために大きく貢献し、両国の関係の重要性は益々増大しています。アラルディ先生は両国の橋渡しとして、また在日ブラジル人たちの間では、教育的、精神的両面において、もはやなくてはならない大きな存在となっています。(取材:塩屋 裕)

編注:アラルディ先生は今年2月21日(土) E.O.Cのゲストとして登場していただく予定です。ぜひご参加ください。

Information 案内

■4月開講語学クラブ 先行受付

- ・初級コミュニケーション英会話
毎月第1・3土曜日 10:00~12:00
講師 ブラッド・パートリース
- ・初級韓国語クラブ
毎月第1・3金曜日 10:00~12:00
講師 金 京雅
- ・韓国語会話クラブ
毎月第2・4金曜日 10:00~12:00
講師 金 永漢
- ・初~中級中国語クラブ
毎月第1・3水曜日 13:30~15:30
講師 深川 春梅

※語学クラブについては受講料月1,000円、テキスト代別途必要 ※協会に入会 詳しくはちらしをご覧ください。

■English Open Café の開催

9月以外の第3土曜日の13:30~マドカホール 3F 視聴覚室で開催します。申込なしでどなたでも参加できます。進行は全て英語です。

■2015年度総会

(と き) 5月9日(土)13:30~
(と ころ) 自泉会館

■泉州国際市民マラソン招待選手歓迎交流会と応援

- ・歓迎交流会 (と き)2月13日(金)18:00~20:00
(と ころ)グランドホール
(費 用)3,000円
- ・応 援 2月15日(日)12:00~消防署前

■地球村クッキング ~インドネシア編~

春木日本語サロンに通うインドネシアからの女性実習生をゲストに迎え、インドネシアの食を通して異文化理解をします。

(と き) 2月1日(日)11:00~14:00
(と ころ) 春木市民センター 実習室
(費 用) 参加費 300円

にっぽいあ岸和田 No.102 編集担当

編集担当 緒方理世・奥野藤樹・塩屋 裕・執行真央・三森すみ代・米川典子
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694